

KeP

THE KENKYUSHA
ENCYCLOPEDIA
OF ENGLISH
WITH PHOTOGRAPHS

キーブ
写真で見る英語百科

KENKYUSHA

THE KENKYUSHA ENCYCLOPEDIA OF ENGLISH WITH PHOTOGRAPHS

Keep

キープ 写真で見る英語百科

編集

櫻庭信之

蛭川久康・廣瀬和清

藤井基精・大庭 勝



KENKYUSHA

Keep

キープ 写真で見る英語百科

THE KENKYUSHA ENCYCLOPEDIA OF ENGLISH WITH PHOTOGRAPHS

1992年 4月 初版



編 者 さくらば のぶき ひろかわひさやす ひろ せ かずきよ
櫻庭信之・蛭川久康・廣瀬和清
ふじ い もときよ おおば まさる
藤井基精・大庭 勝

発 行 者 長井四郎

発 行 所 株式会社研究社
〒102 東京都千代田区富士見2-11-3
電話 編集 03(3288)7711
販売 03(3288)7777
振替東京 9 - 32260

本文組版 研究社印刷株式会社

写真製版 東京平版株式会社

本文印刷 研究社印刷株式会社
株式会社 東京印書館

本文用紙 三島製紙株式会社

ク ロ ス 東洋クロス株式会社

製 本 株式会社 ケイ・ビー・ビー (研究社製本)

製 函 株式会社加藤製函所

ISBN4-7674-3350-9 C0582

PRINTED IN JAPAN

編 集

櫻庭 信之

蛭川 久康 廣瀬 和清
藤井 基精 大庭 勝

編 集 協 力

定松 正 川澄 英男
高木 誠一郎 池田 智
吉川 道夫

執 筆

青木 健	成城大学 教授	高際澄雄	宇都宮大学 助教授
赤須 薫	東洋大学 講師	高橋重男	元熊谷高校 教諭
浅羽 亮一	明治大学 教授	立谷 憲二	常葉学園富士短期大学 教授
Stuart Atkin	南山高等・中学校 教諭	田中 暁	日比谷高校 教諭
伊藤 肇	玉川大学 教授	田中正之	武蔵高校 教諭
池田 浩智	宮崎大学 教授	寺澤 芳雄	東京女子大学 教授
石塚 浩司	中央大学 教授	永井 一彦	研究社辞書編集部 託
市川 泰男	フェリス学院大学 教授	原 孝一郎	成蹊大学 教授
井上 勝	上智短期大学 講師	蛭川 久康	武蔵大学 教授
岩村 圭	成城大学 教授	廣瀬 和清	共立女子大学 教授
大庭 英勝	成蹊大学 教授	藤井 基精	明治大学 教授
川澄 英利	共立女子高校 教諭	藤澤 文洋	都立青山高校 教諭
熊澤 佐夫	大東文化大学 助教授	船戸 英夫	立教大学 教授
河野 健二	成城学園高校 教諭	Stephen A. C. Boyd	
小池 栄	アルザス校 教諭		大阪大学 外国人講師
小島 三郎	フリーライター	前田 豊	明治大学 短期大学教授
小児 玉仁	玉川大学 教授	三谷 康之	東洋女子短期大学 教授
斎藤 誠毅	獨協大学 教授	村上 健	津田塾大学 助教授
斎藤 直樹	神奈川大学 助教授	森 護	西洋紋章学 研究家
斎藤 基彦	(財)自治体国際化協会	梁井 一恵	純真女子短期大学 教授
櫻庭 信之	大阪大学 教授	吉川 道夫	中央大学 教授
櫻庭 由紀子	国際短期大学 教授	吉田 勝知	元アトランティック講師
定松 正美	東京教育大学 名誉教授	吉田 正治	成城大学 教授
篠田 達	フリーライター	吉田 隆志	アメリカンフォトライ
霜崎 實	玉川大学 教授	渡辺 秀雄	ブラリー 代表
関根 悦雄	美術評論家		玉川大学 教授
高木 誠一郎	慶応義塾大学 教授		
	栄光学園高校 教諭		
	元東京家政学院 短期大学 助教授		

(アイウエオ順)

写真提供

アイルランド政府観光庁
アメリカン・フォト・ライブラリー
アラスカ州観光局
イタリア政府観光局
ウォルト・ディズニー・エンタプライズ
英国政府観光庁
『研究社 英米文学辞典』
オーストラリア政府観光局
オリオンプレス
凱風社
カトリック中央協議会
カナダ大使館トラベルインフォメーション
共同通信社
King Features Syndicate, Inc.
サンセット
『時事英語研究』
篠崎書林
『世界の艦船』
世界文化フォト

赤木真二・佐藤敏光・下村純一

相沢浩明・青木 健・赤須 薫・Stuart Atkin・渥美剛治・荒本和彦・蟻川誠一郎・井口 務・池田 智
石田恵美・石塚浩司・市川泰男・伊藤 肇・猪股 均・岩崎光洋・岩村圭南・大島顕久・岡田穰介・小貫弘二
小沼利英・改田 宏・門田三郎・香取幸子・川澄英男・川本利孝・岸本俊子・窪田逸子・小池 栄・河野健二
河野美也子・小川貴宏・小島三郎・児玉仁士・小林明治・小林由美子・小林育代・小林正彦・小牧英幸・斎藤誠毅
斉藤直樹・斎藤基彦・酒井純子・櫻庭信之・定松 正・佐藤研二・篠田達美・霜崎 實・白神智司・鈴木麻穂
関 典明・関根悦雄・高木誠一郎・高際澄雄・高橋重男・瀧沢英雄・立谷憲二・田中正之・田中裕子・千々岩佳史
津谷武徳・寺澤芳雄・豊崎洋子・虎岩正純・永田正男・西谷裕子・根本明美・土方 修・廣瀬和清・蛭川久康
藤井基精・藤澤文洋・古家 聡・逸見一好・Stephen A. C. Boyd・Jeffrey L. Horning・松山幹秀・三谷康之
南 万里・村上 健・村上睦朗・森 護・矢島重直・矢島幸子・矢野文一・柳田幸広・山下史人・山下久代
横山かおる・吉川道夫・吉川健夫・吉田勝知・吉田正治・吉村和敏・米澤里美・若菜敏子・渡辺祥子

挿 画

浅野輝雄・上原朝光・ウノカマキリ・改田昌直・黒沢充夫・斎藤光一・タイガー立石・内藤貞夫・(株)らくがき舎

校正協力

望月羔子・黒坂智子・大島省子・村上文子・古家佳子・房前俊子・池田はま子

社内協力

早川真一・茅原幸子・小梨貞文・國井典子・関 恵理子・川瀬晴美

製 版

小酒井英一郎・榎本 進・宮原直也・鈴木隆志

製 作

比留間浩・土方 修

デザイン / 装丁

東京ニュース・佐々木重紀

辞書編集部

長井寛三・改田 宏・三谷 裕・根本保行

大修館書店
東京都カーリング協会
東芝 EMI
富山県立近代美術館
ナショナルウェストミンスター銀行
ニュージーランド大使館観光局
ハーディー協会
ハモンドスズキ
ファインフォトエイジェンシー
米国商務省観光局
ベニス・シンプロン・オリエント急行
ミッドランド銀行
南アフリカ観光局
安田火災海上保険株式会社
山梨県立美術館
United Feature Syndicate, Inc.
ユニフォトプレス
横浜人形の家

まえがき

いまはまさに国際化時代の到来であり、それに伴って国際間の相互理解の必要性が叫ばれています。アメリカ、旧ソビエト連邦、中国、ヨーロッパ諸国など世界各国に関する新しい情報が、テレビや雑誌などのマスメディアを通してわが国に洪水のように流れ込んでいます。日本人の海外勤務者、海外旅行者の数は年々増加しています。逆に日本で働く外国人の数も多くなってきました。この国際化の時代にあってとくに「アメリカを知る、イギリスを知る」ということはとりも直さず「世界を知る」道に通ずると言っても過言ではありません。そのためにも英語圏の中心であるアメリカやイギリスの文化の本質を正しく理解し、日本文化と比較照合してみることが、今日ほど重要視されている時はありません。

今日英語の辞典は数多く出ていますが、これまでのところでは、語彙辞典が中心でありました。研究社では『英語歳時記』『イギリスの生活と文化事典』などを刊行しましたが、しかし従来のイギリスに関する情報に加え、「アメリカの文化・生活と文学」に関する充実した記述を盛り込んだ事典の出現が待ち望まれていました。最近になってようやく、英語圏の文化を理解するうえでのキーワードに十分なスペースをさき、写真や挿画を豊富に入れた学習辞典が目立つようになってきました。同僚の廣瀬和清氏らが編集した『アプローチ英和辞典』（研究社）もそのひとつです。この辞典の成功を基盤として、研究社の長井四郎社長は、苦労も多いだろうが、とにかく有意義な英米文化事典を世に出してもらいたい、と私たちに依頼されたのです。私たちは社長の意気に感激して、一冊で引きやすく、しかも見て楽しいカラー写真を中心にしたアメリカ、イギリスなど英語圏の文化を総合収録した事典を造り上げることにしました。

本事典の編集骨子は次の通りです。

I イギリスの古い歴史がもつ文化、文学的諸相、歴史的建造物などを徹底して探求することにした。とくにイギリスやアメリカ文学に深いかわりのある地方やその風土、作者の横顔などは作品に描写されている内容をより深く理解する上で必要不可欠な要素であります。

II アメリカやイギリスの日常生活の風俗や慣習のよく知られていない側面、英語圏の制度に関する精確な解説、ことばの語源的背景など、いわゆる事典(事典)的情報を文字によって提示するだけにとどめず、直接目に訴えるカラー写真をスペースの許す限り惜しみなく載せることにしました。そしてそれが外国文化を理解する上で大きな「かけ橋」の役を担うよう工夫することにしました。

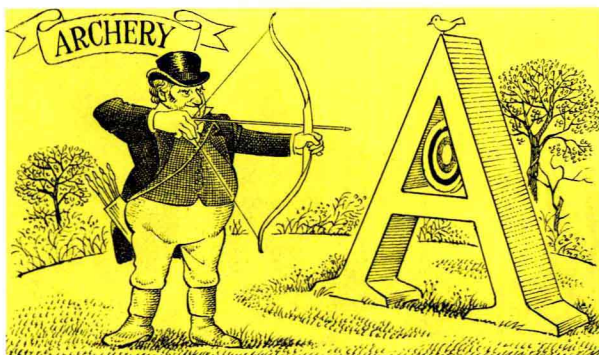
III 見出し項目の立て方は、項目の内容に応じ、大項目・中項目・小項目とし、参照してもらいたい関連項目にはアステリスク(*)をつけるなどして記述の総合的理解・把握に役立つようにしました。

1985 年(昭和 60 年)4 月に第 1 回編集会議を開き、従来にない英米文化総合事典の完成をめざして精進してきました。その間、私たち編者はもとより、執筆者の方々も幾度か海外に出張して取材しました。また海外に在住している知人たちに依頼して写真を撮影してもらいました。こうして集まった何万点にもものぼるネガの焼き付け作業やその整理は並大抵のことではありませんでした。本事典に盛り込まれた写真、イラストの枚数は約 5,600 点にもものぼります。膨大な数の写真のなかから、見出し項目に一番ふさわしい写真を選ぶという作業もまた大変難渋しました。新しい発見があるたびに、解説文を全面的に書き直す作業に追われ、二重、三重の苦労と忍耐を余儀なくされ、幾度となく試行錯誤を繰り返してきました。考えてみれば、これが事典編集者の宿命であるのかもしれない。編集作業に着手して以来、6 年の歳月が過ぎ去ることとなりましたが、多くの執筆者、写真家、イラストレーター、写真撮影協力者などの人達の‘英知の結集’と、長井寛三氏をはじめとする辞書編集部員や印刷関係の方々の休日を返上するなどの文字通り長期にわたる献身的努力のお蔭もあってようやく——写真で見る英語百科——KEEP (『キープ』) が上梓の運びとなった次第です。ここに、協力して下さった方方に対し謹んで深い感謝の意を表し、そのお名前を別記して、お礼のことばにかえさせていただきます。

いま一応の仕事を終え最終のゲラを前にしてみますと、大勢の方々の努力と協力にもかかわらず、あれもない、これもない、と不備な点に編集の力不足を思い、心が痛みます。しかし、これが私たちの今回残し得た第一歩であります。今日ただいまから、私たちは本事典のいっそうの発展に向かって努力しなければなりません。本事典をお使い下さる方々の積極的なご援助、ご助言を心からお願い申し上げます。

1992 年 1 月

編集代表 櫻庭信之



AA イギリス自動車協会

the Automobile Association の略。1905年に発足し、会員の車の故障修理などの路上サービス (breakdown service) やレースの主催などを行なっている。警告標識 (warning signs) の設置、指定ホテルの等級づけ、地図帳や各種のガイドブックの出版なども手がけている。1986年現在で会員数は600万を超える (⇒ AAA, RAC)。



▲ AA のサービスカー



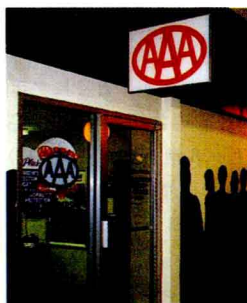
AA が選定した三つ星
マークのホテル ▶



◀ AA の営業所

AAA アメリカ自動車協会

the American Automobile Association の略。トリプル A (triple A) という。道路事情の改善と会員ドライバーに対するサービスを目的として、アメリカで1902年に創設された。旅行の斡旋、ホテルの予約、車についての緊急処置や保険、観光用ガイドブックの出版、ホテルの認定などを行なっている。会員がサービスを依頼するときはフリーダイヤル (toll-free call) の1-800につづけて336-4357に電話すればよい。電話のダイヤルは2がABC, 3がDEF, 4がGHI... というように、アルファベット3文字と数字がセットになっていて、H-E-L-P とダイヤルすれば、4357になる仕組みである。1989年現在、会員数2,900万人 (⇒ AA)。



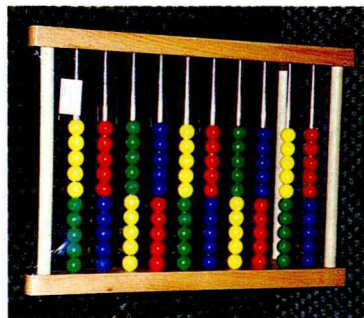
▲ AAA の営業所
AAA 認定のホテルの看板 ▶



◀ AAA が発行している会員向けの地図の表紙の一部

abacus 計算器

現在のそろばんの前身で紀元前のバビロニアで用いられた計算器。商売上で重要な役割を果たしてきた。壁に立てかけたりして珠 (beads) を上下に動かしても落ちない。今では幼児用の計算器 (counting frame) として用いられている。



abbey ㇿ p. 2

Aborigines アボリジニーズ

オーストラリアの原住民。4万年以上前に南アジアから大陸に移住し、漸次全土に広がり近代ヨーロッパ人に発見されるまでほかからは全く孤立した生活を続けた。食料になるものが極端に少ないこの自然の厳しい大陸で、採集と狩猟で生き延びてきたが、白人の入植により人口が激減した。しかし最近では再び持ち直し、15万人程度と推定される。日本でもよく知られるブーメラン (boomerang*) や、木皮絵画 (bark painting) や管楽器の一種であるディジェリドゥ (didgeridoo) など独特の文化をもつ。

▼ オーストラリア原住民の踊り



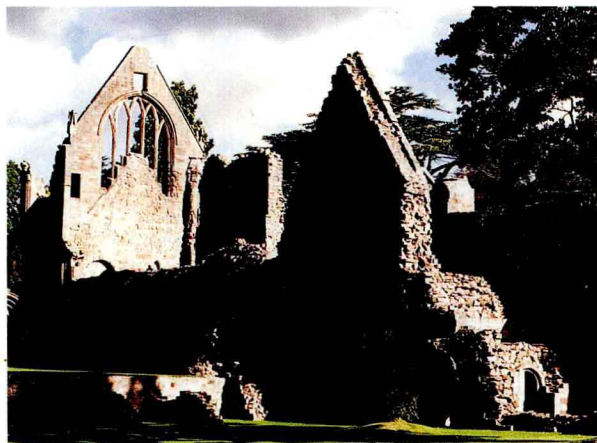
abbey (大)修道院

修道院は一般に *monastery** の語があてられるが、とくにアボット (abbot, 女性形は abbess) によって管理される(大)修道院を *abbey* という。イギリスではヘンリー 8 世 (Henry VIII*) の修道院解散の際に大半が破壊され、その財産は王室に没収されたり、有力貴族の所有に帰したので、今日その多くは廃墟 (ruins*) となっている。

イギリスで *the Abbey* といえは、ロンドンの国会議事堂に近いウェストミンスター寺院 (Westminster Abbey*) をさす。

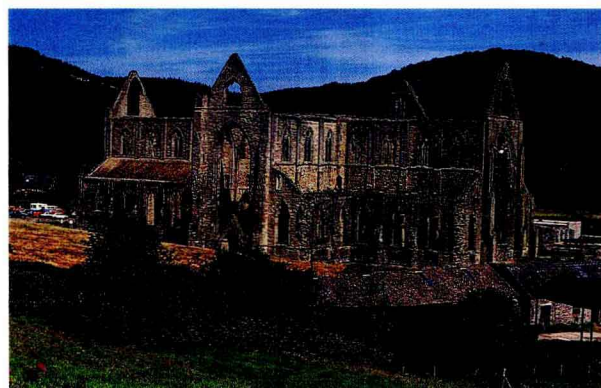
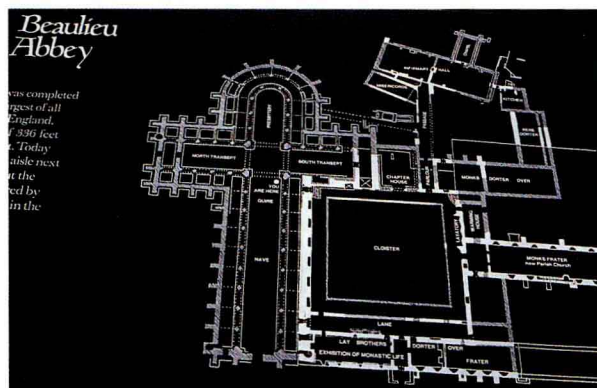
abbey はもと修道院であったものを個人の邸宅に転用した屋敷を表わすこともある。

ノッティンガムシャー州 (Nottinghamshire) にある詩人バイロン (Byron*) の邸宅として有名なニューステッドアベール (Newstead Abbey) はその好例で、ヘンリー 2 世によって 12 世紀後半に建てられ、16 世紀中ごろバイロン家へ譲られた建物である。ジェーン オースティン (Jane Austen*) の小説のタイトルになっているノーサンガーアベール (Northanger Abbey) に出てくる邸宅もその一例である。



▲ ドライバラアベール (Dryburgh Abbey) の廃墟
詩人スコット (W. Scott) が晩年を送ったアボッツフォード (Abbotsford) に近く、ここにあるスコット家代々の墓地に、彼は妻のシャーロット (Charlotte) と並べて葬られた。近くにはスコットが愛した景色が見晴らせる高台 Scott's View もある

▼ ジョン王 (King John) が 1204 年に創立したシトー修道会のボーリュアアベールの平面図 (ハンプシャー州に残る修道院の遺跡で会堂に付設した回廊や食堂が見られる)



▲ ティンターンアベール (Tintern Abbey)
ウェールズのワイ川 (the Wye) 上流にあるシトー修道会 (the Cistercian Order) の大修道院でその美しいゴシック風の高窓を残すロマンチックな廃墟はワーズワスの詩で有名であり、観光客が多い

▼ アーサー王 (King Arthur) 伝説とゆかりの深いグラストンベリーアベール (Glastonbury Abbey)

▼ アイルランドのカイルモア女子修道院 (Kylemore Abbey)



acanthus アカンサス葉飾り

ギリシアのコリント式柱頭 (capital) などのハアザミ模様の装飾。生命力の象徴として早くからキリスト教の教会建築に取り入れられてきた。ゴシック (Gothic) 期になると、ヤシ (palm*) の葉をモチーフにした左右対称の紋様パルメット (palmette) と区別しにくくなった (⇒ column)。



ハアザミ ▶



▲ アカンサス葉飾り (アテネのアゴラにて)

accolade ナイト爵位授与式

イギリスのナイト爵 (knight) の称号は所持者一代限りのもので、王 [女王] の意思で授与できるが、現在は首相の推挙にもとづき王 [女王] が授与する形式になっている。

ナイト爵の授与式はバッキンガム宮殿 (the Buckingham Palace*) で行なわれる。爵位を受ける当人がまず王 [女王] の前に進み出てひざまずく。王 [女王] は右手に持った剣の先の側面を叙爵者の両肩に交互に触れ (dub), 次に勲章付きのリボンを叙爵者の肩に掛ける。

▼ 女王が叙爵者の両肩に剣先を触れるところ

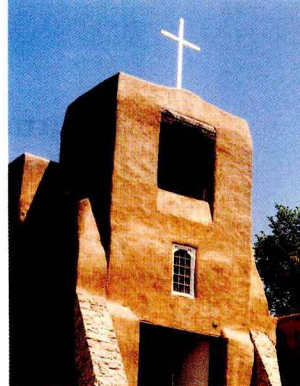


Adam and Eve p. 4

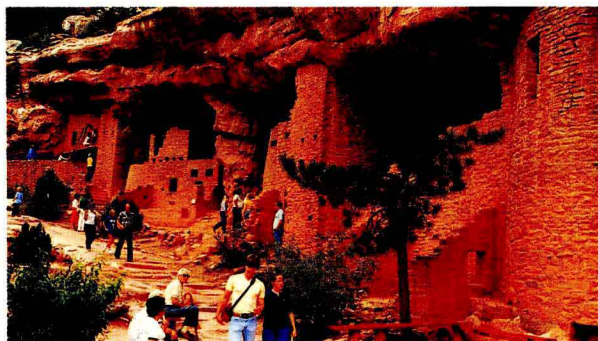
adobe 日干しれんが,

アドーベ

火で焼く代わりに太陽の熱で乾燥させて作られるれんがのことで、このれんがで作った家 (adobe house) や塀をさすこともある。日干しれんが造りの家は雨の少ないアメリカの南西部やメキシコに多く見られ、インディアンやメキシコ人が住宅として用いる。



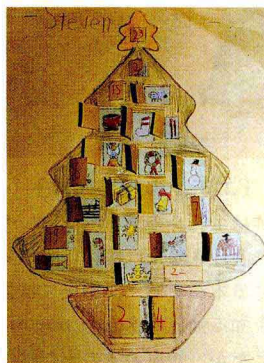
▲ ナバホインディアンの居留地にあるアドーベで建てた教会



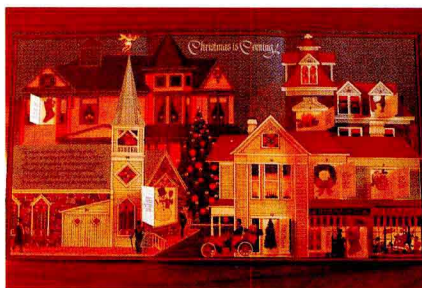
▲ コロラド州メサバード (Mesa Verde) 国立公園にあるアドーベ造りのインディアンの住居跡

Advent calendar 降臨節カレンダー

降臨節 (Advent) とはクリスマス (Christmas*) 前の約 4 週間を意味し、キリスト (Jesus Christ*) の降臨にいたるまでの日々を描いた 12 月 1 日からクリスマスイブまでのカレンダー (calendar*) を降臨節カレンダーという。毎日ひとつずついねいに小さな扉を開けながら暦をめくっていく。子供たちは教会や家庭でクリスマスにちなんだ図柄を使って思い思いに降臨節カレンダーを作る。



アメリカの子供の作品 ▶



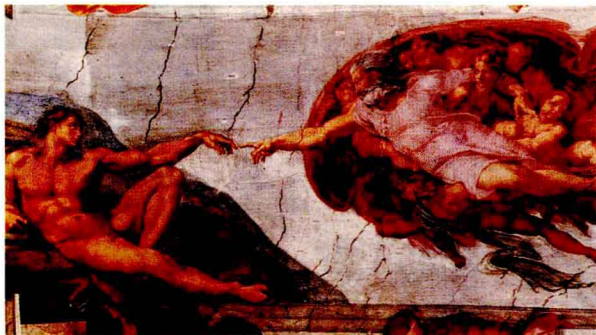
◀ 扉をあけるとサンタクロースや靴下などクリスマスの風物があらわれるようになっている

advertisement p. 6

Adam and Eve アダムとイブ

〔アダムの創造〕

旧約聖書の「創世記」(2:7) によれば、神は天地を創造したあと、まず最初に人間の男アダムを造った。アダムは土のちり(the dust of the ground) で造られ、神の息を吹き入れられて生きた者(a living soul)となった。



▲《アダムの創造》いま生命が覚めようとしているアダムは、半ばまどろみながら大地から身を起こし、敬慕のまなざしで創造主の方へ腕をのばしている。いままさに触れ合おうとしている両者の人指し指は、神の力と生命が人間の肉体に吹き込まれようとする瞬間を示すものである(ミケランジェロ画、システナ礼拝堂)

〔イブの創造〕

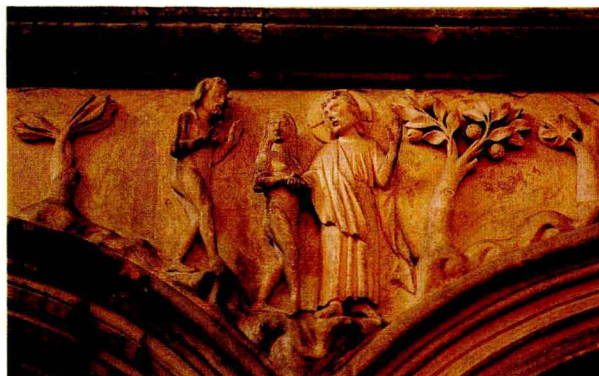


▲《イブの創造》神はアダムの肋骨に肉をつけて最初の女イブを造った(ミケランジェロ画、システナ礼拝堂)

〔エデンの園と原罪〕

神はエデンの東(the East of Eden)に園を造り、アダムをおいで管理させた。園には眼に美しく食用にもなる実をつけるあらゆる木々を植え、中央には生命の木(the tree of life)と、善悪を知る知恵の木(the tree of knowledge of good and evil)を植えたが、知恵の木の実だけは食べるなどアダムに固く禁じた。

神はあらゆる動物と鳥を造ったが、アダムにふさわしい助手(help)が見つからなかったの、アダムに女(妻)を与えることにした。神はアダムを深く眠らせてその肋骨(rib)を1本抜き取り、それにアダムの肉をつけて最初の女イブを造ってアダムの妻とした。アダムは、これは自分の骨と肉から造られたもので、ヘブライ語で *ish* (=man) から造られたものだから *issā* (=woman) とよぶといった。ふたりとも裸であったが恥じなかった。しかし蛇(serpent)の誘惑で女は禁断の木の実(forbidden fruit)を食べ、それを男に与えた。するとふたりの「目が開いて」裸であることに気づき、イチジク(fig*)の葉で恥部を隠した。これが有名な原罪(original sin)の物語である。



▲ 神はアダムとイブのふたりに木の実を食べることを禁じている(ソールズベリー大聖堂)



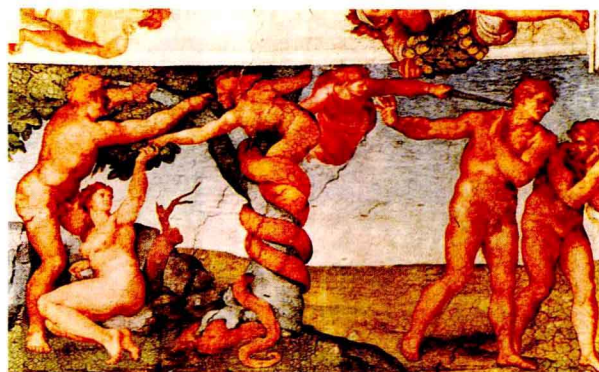
▲ 禁断の木の実をイブがアダムに手渡すところ(グロスター大聖堂のミゼリコード(⇒ misericord))

〔楽園追放〕

アダムとイブが禁断の木の実を食べたことを知った神は、彼らに皮の着物を着せて楽園から追放した。それ以来、人間は食物を得るためには苦労して大地を耕し、死ねばもとの土のちりに帰らねばならないことになった。また、女にはイブの罪の罰として、産みの苦しみが与えられた。

エデンの園(the Garden of Eden)の東には、天使ケルビム(cherubim)とグルグル回る炎の剣がおかれて、人間が二度と再び楽園に入らぬようにした。

▼《原罪》中央の知恵の木をはさんで、イブを誘惑する擬人化された蛇と、楽園を追放されるアダムとイブが同時に描かれている。禁断の木の実を取ろうとする2人の若々しい肉体と、神の怒りにふれて楽園を追放される人間の祖先の愚かさや悲しみが対照的に表現されている(ミケランジェロ画、システナ礼拝堂)



Aesop イソップ



イソップは紀元前 620 年前後に生まれたギリシアの寓話作家。エーゲ海 (the Aegean Sea) のサモス島 (Samos) で奴隷となるが、のち解放されて自由民となり、寓話を語りながら諸国を巡った。デルフォイ (Delphi*) で罪をかぶせられ、紀元前 560 年前後に殺されたといわれる。

◀ ペラスケスが描いたイソップの肖像

〔イソップと寓話集〕

『イソップ寓話集』(Aesop's Fables) は創作ないしは伝承によるとされるが、その多くの物語はイソップの生存期間よりずっと以前にエジプトのパピルス (papyrus*) の巻物の中に見出される。この寓話集の原形は不明で、今日広く『イソップ寓話集』として知られる伝本は、14 世紀のコンスタンチノーブル (Constantinople, 現在のイスタンブール) の修道僧が編集した『イソップ寓話集』に由来し、その後、数々の寓話を吸収しながら広まる中で、とくにインド起源の寓話が数多く加えられた。

版により異なるが、今日の収録数はおおよそ 400 にのぼる。15 世紀に英・独・仏語の訳本が生まれ、中でも 200 点近い木版画 (woodprint) を添えたカクストン (W. Caxton*) 本は有名。日本にはキリスト教伝来とともに伝わり、その伝本としてはローマ字本の天草本『伊曾保(イソポ)物語』、文語体の訳本『伊曾保物語』がある。

▼ 天草本『伊曾保物語』の扉 (エソポのファブラス。ラチンを和して日本の口となすものなり...)



▲ カクストン版の英国古版本に掲げられたイソップの肖像

〔動物を主人公とするモラル〕

『イソップ寓話集』は動物を主人公とするものが中心になっているが、その素材は神、人間、植物などにも及び、単純明快な筋の中に適切なモラルを含んでいるから、むかしの日本の修身の教科書にも採られている。これらの教訓的物語から生まれた慣用表現も多い。



「キツネとツル」
キツネがツルに皿のスープをすすめて困らせると、その仕返しにツルはキツネに口の細長いビンの中に肉を入れてすすめて困らせたという話 (ハンガリーの切手)

たとえば「すっぱいブドウ」(sour grapes) とは、自分が入手できないものに対して悪口を言って気休めをするという意味で、「負け惜しみ」の意味である。これは寓話集の「キツネとブドウの房」に由来する。

「キツネとブドウの房」
キツネは入手できないブドウに対して「あれはすっぱいブドウだ」と負け惜しみを言って気休めをするという話 (ギリシアの切手)



「カラスとキツネ」
あなたの美しい声を聞かせてくれと、キツネにおだてられたカラスが口を開くと、くわえていた肉片が落ちて下にいたずるがしこいキツネにさらわれたという話 (人のおだてにのるなという教訓) (ギリシアの切手)

「ウサギとカメ」
「モシモシカメヨ カメサンヨ」で日本の童謡にもなっている話。Slow and [but] steady wins the race. (ゆっくりでも着実なのが競走に勝つ——急がば回れ) という教訓をあらわす (ギリシアの切手)



このように生活上の教訓を示唆するものが多く、登場人物の描写も鮮明で、名実ともに世界の寓話文学の先駆となっている。動物の性格をよく活用している点では、今日すでに世界の古典といわれるオーウェル (G. Orwell) の『動物農場』(Animal Farm, 1945) につながる。

advertisement 広告

〔広告の歴史と意義〕

広告の歴史は古代ギリシア、ローマまたはエジプトに始まり政治的・商業的・宗教的分野にわたり広くその宣伝活動 (propaganda) として発達した。とくに中世における活字印刷術の発明と、16, 17, 18 世紀におけるフランス、イギリス、アメリカの新聞・雑誌の誕生が宣伝活動としての広告を多角的に変化させ発展させて今日に至っている。



▲ 18 世紀ロンドンの触れ役 (town crier)

時と場所によって、advertisement という語の代わりに address, advice, announce, encounter, information, intelligence など用いられたが、基本的には「重要な知らせ」という意味である。今日見られる広告の形式はそのほとんどが古代ヨーロッパやエジプトの社会生活から生まれている。

たとえば、アブシンベル (Abu Simbel) のラムセス 2 世 (Ramses II) の巨大像は、オベリスク (obelisk*) 同様国王の威力を宣伝するモニュメントであった。またロゼッタ石 (the Rosetta stone*) は古代エジプト文字とギリシア文字による僧侶たちの国王礼賛で、すべて国王の宣伝であり、今日の PR (public relations) の元祖と考えることもできる。

〔呼び売りの草分け〕

文字や印刷が十分に発達していない古代ヨーロッパにおいては、呼び売りや布告を町に触れまわる人 (town crier*) などの声が、

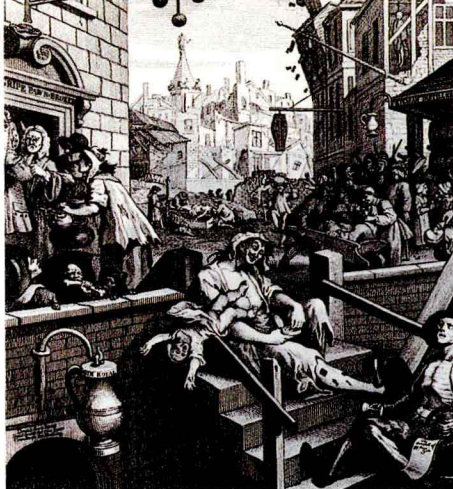
広告の最初のメディアであったといえる。それは古代ギリシアやエジプトの物々交換の市場から起こった。

中世になっても商品はすべて市場 (market) や定期市 (fair*) で売買された。イギリスではそれが 14 世紀から 18 世紀まで続いた。とくに 18 世紀のロンドンの呼び売り (London cries) は有名で、布告を触れまわる人は鐘を鳴らしたり角笛を吹いたりした。

▲ 18 世紀ロンドンの花売り娘(「一束 1 ペニーだよ」と呼ばわった)



▶ 《ジン酒横丁》 (ホガースの版画)



18 世紀のイギリスの諷刺画家のホガース (W. Hogarth) は、しばしば当時のロンドン市民の趣向を代弁する版画を彫って、宣伝広告の役をはたしている。たとえば《怒れる音楽家》という作品ではイタリアオペラ追放運動とイギリス伝来の古謡による『乞食オペラ』(The Beggar's Opera, 1728) の宣伝をしている。また《ジン酒横丁》という版画では、ジン酒の害毒と犯罪防止を訴えたフィールディング (H. Fielding) の調書を具体的に示して応援した。質屋、酒屋、葬儀屋の看板 (signboard) がリアルに描かれている。

〔街頭広告の氾濫〕

ホガースの絵にも見られる商店の看板やその他の形による街頭広告も、ほとんどその原型が古代ローマ時代に見られる。バッカスの頭に飾るセイヨウキジタ (ivy) の枝を束ねた棒 (bush) を軒先に突き出したローマ時代の酒屋の目印は、今日も見られるパブ (pub*) や宿屋 (inn*) の看板の先駆であった (⇒ pub sign)。

イギリスの中世から 19 世紀にかけて流行したサンドイッチマン (sandwich man) も、じつはローマ時代の産物であった。アリストテレス (Aristotle) が庭を歩きながら教えたという逍遥学派 (Peripatetic) の名にちなんで、別に「逍遥広告」(Peripatetic placard) と風流な名でよばれたりした。動く広告の最初の姿である。動く広告といえば今日のロンドンの名物ダブルデッカー (double-decker*) はまさに走る広告塔である。アメリカでは自動車が発明された当時 (1895) のいわゆる「馬なし乗合馬車」(horseless carriage) といわれた自動車の広告が最初の動く広告であった。

街頭広告の変わり種には、エリザベス朝に出現し、アメリカで流行したたばこ屋の店頭を飾るインディアンの木像 (wooden Indian*) がある。またガス燈や電燈の発明後、光を用いることで、広告

▶ 広告の文字におおわれたバス (イギリス)



〔キリスト教のプロパガンダ〕

プロパガンダ (propaganda) という語はキリスト教の布教活動から生まれ、今日ではある特定のイデオロギーの宣伝運動を意味するようになったが、もとは「取り木」(layer) による植物の増殖を意味する propagation から出ている。旧約聖書は本質的には預言者たちの布教活動の宣教記録である。クリスマスは、マリアがキリストを生んだことを世人に強く印象づけるためのキリスト教徒のプロパガンダであるという人もいるが、それが商業政策に利用されすぎたきらいがある。今日でも書店の看板に見られる SPCK* の文字は、発展途上国に対するキリスト教知識普及会 (Society for Promoting Christian Knowledge) の運動が存続していることを物語っている。

〔活字印刷の発明と広告の進歩〕

15 世紀のドイツのグーテンベルク (J. Gutenberg) による活字印刷技術の発明は、書物だけでなくニュースの流布をも助長した。



▲ フランスのタイヤメーカーミシュラン (Michelin) の広告塔

イギリスではカクストン (W. Caxton*) がグーテンベルクに学んで印刷術をおこした。その結果小冊子のニュースブック (newsbook) が生まれ、やがて新聞へと発展する。キリスト教の布教活動もこの活字印刷を利用してビラ (bill), ポスター (poster), パンフレット (pamphlet) を流行させた。ことにポスターは 19 世紀までに広告の重要なメディアとして発展し、とくにフランスのロートレック (Toulouse-Lautrec), イギリスのピアズレー (A. Beardsley) などがすぐれた美術的ポスターを生んだ。

〔ロンドンの地下鉄のポスター〕

イギリスのポスターでは、ディケンズ (C. Dickens) の友人コリンズ (W. Collins) の『白衣の女』(Woman in White) 上演の広告ポスターが最初とされるが、今日のロンドンで注目すべきポスターは、地下鉄の駅の壁に貼られたものであろう。宣伝の文句も気がきいていて楽しませてくれる。これはピック (F. Pick) という人の発想によるといわれる。

▼ 地下鉄ベイカーストリート駅にあるシャーロックホームズのシルエット。No Smoking がユーモラス



▲ ロンドンの地下鉄のホームにも広告が多い

〔アメリカの広告〕

アメリカではフランクリン (B. Franklin*) が、『貧しきリチャードの暦』(Poor Richard's Almanack, 1732-57) を発行し、商店や会社の新年の挨拶をかねた有力な宣伝の先鞭をつけた。

20 世紀に入るとラジオやテレビが広告の強力なメディアとして登場する。途切れることのない広告をモットーとする「記憶させる広告」(reminder advertisement) の時代である。

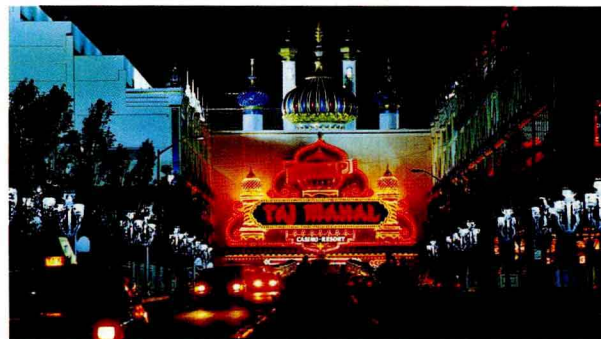


▲ アメリカ商品の宣伝が目立つロンドンのネオンサイン

むかしアメリカのたばこ屋 (smoke shop) には木彫りのインディアンの人形が入口に立っていた ▶



▼ アトランティックシティのカジノの夜景



aisle 側廊, 通路

教会堂 (church*) の身廊 (nave*) の両側にあり、多くの場合柱 (pillars) によって区切られた通路をいう。教会はふつう西側を正面入口にして東西に長く建てられているので、側廊は身廊の右側が南側廊、左側が北側廊とよばれる。側廊にはしばしば身分の高い人々の墓所が設けられたり、多くの記念碑が壁に埋め込まれたりしているから、教会の長い歴史を知る格好の場所となっている。劇場、飛行機などの座席間の通路も aisle という。



▲ ニューヨーク州ウエストポイント (West Point) の教会の側廊

Alabama ｱﾗﾎﾞﾏ p. 9

the Alamo アラモの砦(とり)

アラモの砦は本来キリスト教伝道のため 18 世紀の初め (1718) にテキサス南部のサンアントニオ (San Antonio) に建てられたスペインのフランシスコ修道会の伝道所 (the Franciscan mission) であった。スペインから独立してメキシコ領になっていたテキサスに住むアメリカ人たちが、メキシコからの独立を求めて反乱を起こしたときに立てこもった砦として知られる。

ここに立てこもったわずか 180 人あまりのアメリカ人は、メキシコ大統領サンタ アナ (Santa Anna) 将軍が率いる約 4,000 のメキシコ軍を相手に 1836 年 2 月 23 日から 3 月 6 日まで戦った。その中に隊長のトラビス (W. Travis) 中佐、ボウイーナイフ (bowie knife) で知られるジェームズ ボウイー (James Bowie)、テネシー義勇軍として馳(は)せ参じたデイビー クロケット (Davy Crockett*) らがいた。メキシコ軍の損害は 1,500 名にのぼったといわれている。一方、守備隊は全滅したが、非戦闘員約 30 名の命は助けられた。

アラモの悲報を聞いてテキサスのアメリカ人は奮い立った。ヒューストン (S. Houston) 将軍が率いるアメリカ軍は「アラモ砦を忘れるな!」(Remember the Alamo!) を合い言葉としてサンタ アナの軍隊に立ち向かって彼を捕虜にし、やがてテキサスは独立を果たした。

▼ 観光客でにぎわうアラモの砦



▲ サンアントニオ市のコンセプション伝道所

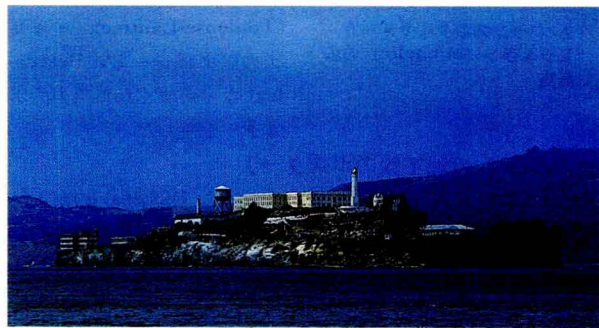
Alaska ｱﾙｹﾞｰﾀﾞ p. 10

Albion ｱﾙﾌﾞｨｵﾝ p. 11

Alcatraz Island アルカトラズ島

アメリカのカリフォルニア州のサンフランシスコ湾 (San Francisco Bay) に浮かぶ 5 万 m² 弱の小さな岩石の島。1868 年に軍刑務所が作られたが、1934 年から 1963 年までは島全体が連邦刑務所となり the Rock とよばれた。島の周囲に屹立する岩と湾の潮流の変化が激しく流れが急なので、脱獄不可能な刑務所といわれたが、26 名も脱獄を試みた者がいた。そのうち 8 人は射殺されるか溺死し、13 人は捕えられた。

1769 年スペイン人が発見したとき、島はペリカンでいっぱいだったので、Isla de Alcatrazes (=Island of Pelicans) とよばれた。1969 年インディアン文化の存続を主張する若いインディアンによって 1 年半ほど占拠されたこともある。現在はゴールデンゲートレクリエーション地域 (the Golden Gate National Recreation Area) の一部となっている。



▲ アルカトラズ島全景

▼ もと刑務所として使われたアルカトラズ島の建物の一部



Alabama アラバマ州

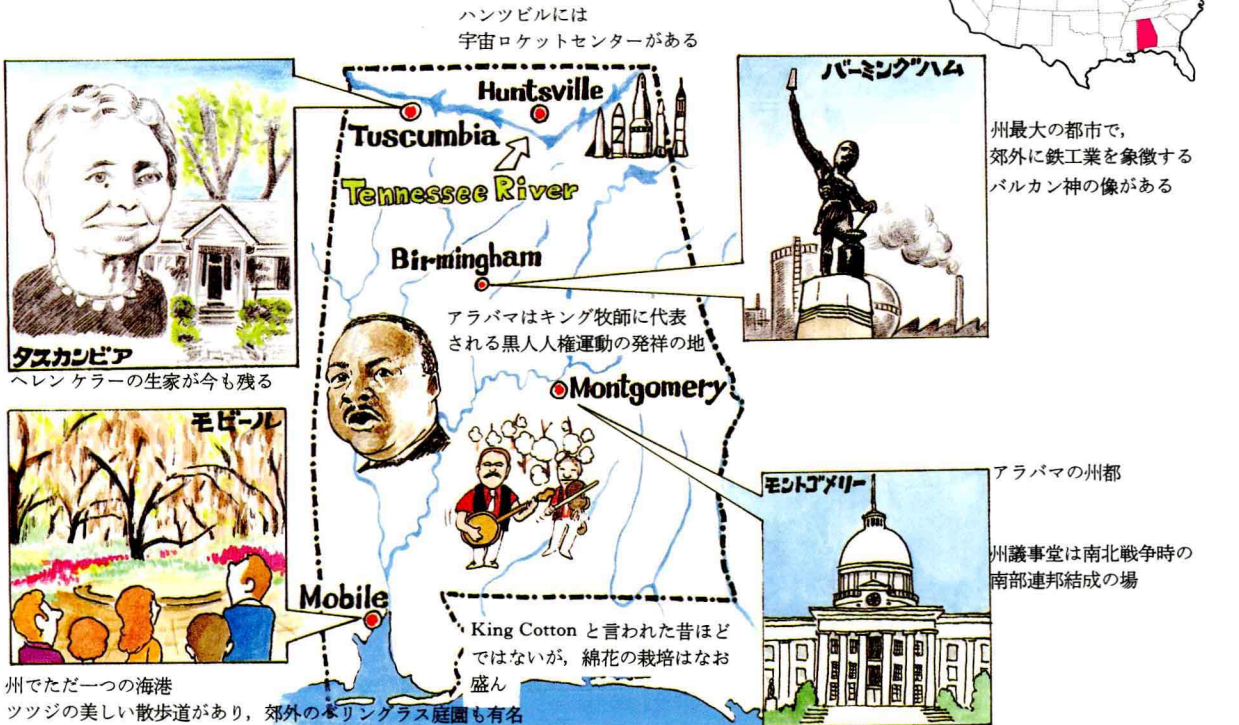
■ 綿花の州からの脱皮

州都 Montgomery (モントゴメリー)

略称 Ala.; AL (郵便略称)

標語 We Dare Defend our Rights (われら勇を鼓し権利を守らん)

アラバマは南部諸州 (Dixie) の真中に位置し、南部の中心 (Heart of Dixie) とよばれる



〔州名の由来〕

「茂みを開拓する」(I clear the thicket) を意味するインディアンのチョクトー族 (the Choctaw) のことば *alba ayamule* に由来する名称。

〔概観〕

アメリカ合衆国南部のほぼ中央に位置し、北にはテネシー川 (the Tennessee) が流れ、東北部はアパラチア山脈 (the Appalachian Mountains) の南端がかかる。南にはアラバマ川 (the Alabama) が流れ、メキシコ湾 (the Gulf of Mexico) に注いでいる。もとは、インディアンのクリーク族 (the Creek) やチョクトー族などが住んでいたが、何回かの戦いののち 1830 年にインディアン強制移住法 (the Indian Removal Act) が制定され、インディアンはミシシッピ川 (the Mississippi*) 以西へ追いやられた。その後、州の中央部から南部にかけて黒人奴隷を使用した大規模な綿花農園が広がった。綿花を中心とした貧しい小作人による農業は南北戦争後も続いていたが、バーミングハム (Birmingham) を中心とした鉄鉱業の発展、1930 年代の TVA (テネシー川流域開発公社, the Tennessee Valley Authority*) ダムの建設による安い電力の供給などにより徐々に変化し、第 2 次世界大戦後は工業化が進んで農業も機械化さ

れた。州北部の都市ハンツビル (Huntsville) には米国 3 大宇宙センターのひとつ、ジョージ C. マーシャル宇宙センター (George C. Marshall Flight Center) も開設された。

州旗はふつう星条旗と並んで掲揚されるが、この州では州旗より南部連盟の戦闘旗 (the Stars and Bars) が掲げられる。

〔ニックネーム〕

Cotton State (綿花の州)

Heart of Dixie (南部の中心)

Yellowhammer State (ハシボソキツツキの州)



州旗

州花 *camellia*
(ツバキ)



州鳥 *yellowhammer*
(ハシボソキツツキ)

Alaska アラスカ州

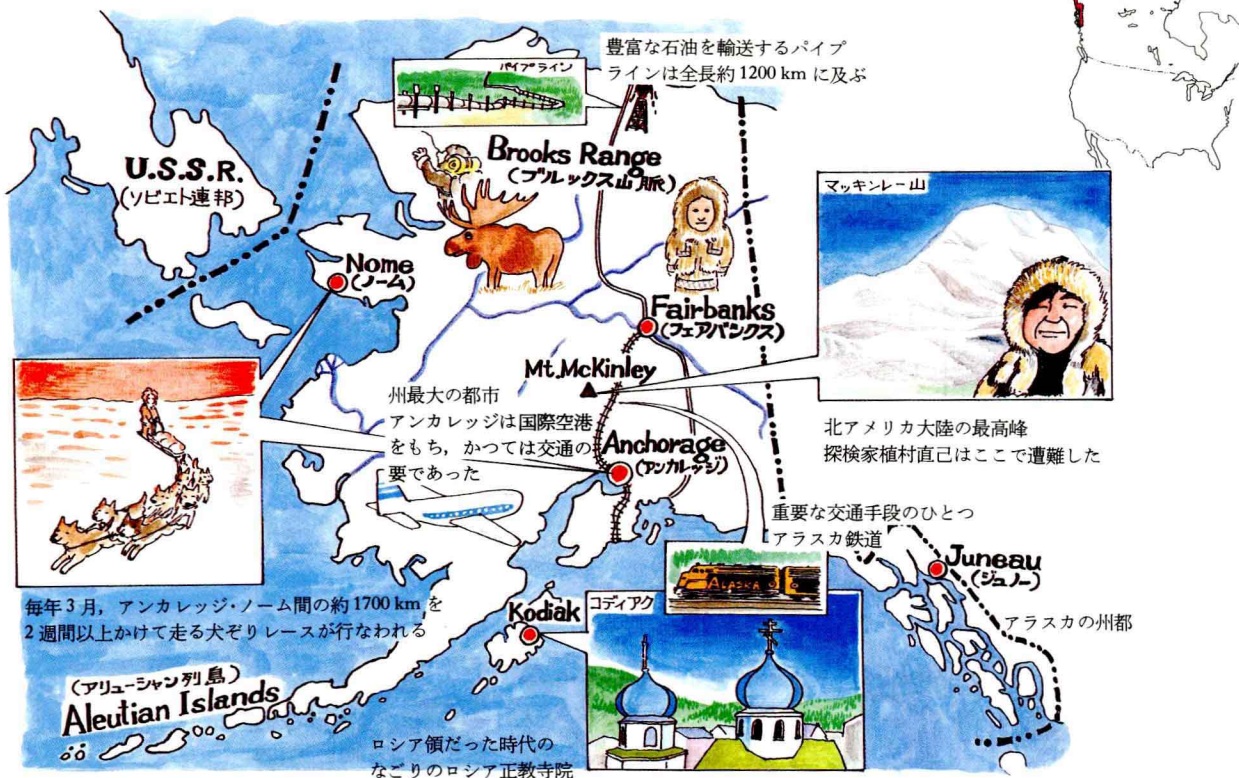
■ 最後の辺境

州都 Juneau (ジュノー)

略称 Alas.; AK (郵便略称)

標語 North to the Future (未来へ向かう北国)

アラスカはアメリカ 50 州のうち最大の面積をもち、国土の約 6 分の 1 を占める



〔州名の由来〕

「半島」(peninsula) を意味するインディアンのアレウト族 (the Aleut) のことば *alakshak* に由来する名称。

〔概観〕

北米大陸北西端に位置するアメリカ合衆国最大の州でカナダを挟んで他の州とは離れている。地形的には南のアラスカ山脈 (the Alaska Range) と北のブルックス山脈 (the Brooks Range) を境に 3 つの地域に分けられる。アラスカ山脈以南はフィヨルド (fjord) 海岸と大森林地帯からなり、人口約 40 万人の大部分はここに住む。ふたつの山脈に挟まれた中央部にはユーコン川 (the Yukon) が流れ、平坦な盆地をなしている。ここは乾燥した気候で、寒暖の差が激しく樹木の生育は悪い。ブルックス山脈以北はツンドラ (tundra) 地帯で永久凍土である。夏には氷がとけた地表に高山植物が育つ。

かつては北にエスキモー、西端にアレウト、南にインディアンが住んでいたが、18 世紀中ごろ以降ロシアから白人が進出、1867 年アメリカはロシアからアラスカ全土を 720 万ドルで購入した。このためアラスカ各地にロシア文化の名残りが今も認められる。現在ではエスキモー、インディアン、アレウトを合わせた人口は州人口の 16 % にすぎず、彼らの生活はロシア時代の伝統を残しながらもかなりアメリカ化している。

アンカレッジ (Anchorage) 空港は、日本とヨーロッパおよび北アメリカを結ぶ航空路の重要な中継地点であった。今日では、アラスカは豊富な地下資源と軍事的位置の重要性から新たに注目されている。

〔ニックネーム〕

Last Frontier (最後の辺境)

Land of the Midnight Sun (白夜の地)



▲ 州旗



▲ 州花 forget-me-not (ワスレナグサ)



◀ 州鳥 willow ptarmigan (ヌマライチョウ)